

車座ふるさとトークの開催

地域防災室

平成29年2月4日、原田総務副大臣出席の「車座ふるさとトーク」を高知県黒潮町で開催しました。その概要は以下のとおりです。

1 車座ふるさとトークとは

安倍内閣では、大臣、副大臣、政務官が地域に赴き、テーマを決めて、現場の方々と少人数で車座の対話を行い、生の声をつぶさに聞いて、政策にいかすとともに、重要政策について説明する「車座ふるさとトーク」を開催しています。

2 高知県黒潮町の概要

- 中央防災会議による南海トラフ地震の被害想定において、最大津波高34メートルという国内一の想定を受けた町。
- 「犠牲者ゼロ」を目指し、津波避難空間の整備や職員地域担当制の導入等、防災の取組を進めている。

3 車座ふるさとトークの概要

- 参加者：12人
(内訳：黒潮町消防団、消防団員の配偶者、自主防災組織、女性防火クラブ、「世界津波の日」高校生サミット議長（高校生）、小学校長、黒潮町役場職員等)
- 主な意見
 - ・黒潮町の津波想定高は34.4メートルと日本で一番厳しい数字であるが、「犠牲者ゼロ」を目指し、町をあげて防災対策に取り組んでいる。
 - ・消防団は地域のつながり・文化を守る役割も持っている。訓練等の活動が特殊でもあるので、特に若者から敬遠されないように魅力づくりをすることが必要である。
 - ・被用者（サラリーマン）が消防団員の多くを占めるようになっており、仕事中的出勤等が難しいため、昼間の消防団活動を支援できるよう消防団員OB、女性に関わってもらうことも重要である。また、高校生等の果たす役割も重要であるため、学校での教育にも力を入れている。
 - ・自主防災組織としては、どのようにリーダーを育成して

いくかが課題。また、子供の防災意識を高めることで、子供の親の訓練参加につながるといった効果がある。

- ・「世界津波の日」高校生サミットでは、災害を知る、災害に備える、復旧・復興するといった3つのテーマで話し合い、アクションプランを宣言として採択した。防災に対する意識が高まったとともに、自然と上手く付き合っていくことについて考える機会となった。
- ・町民の防災意識の醸成は進んでいるが、観光客など地域外から来た人への対応のため、分かりやすい標識の設置や声かけの徹底も必要である。



問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部地域防災室 富川
TEL: 03-5253-7561